



～文化の風が吹くまち ちくしの～

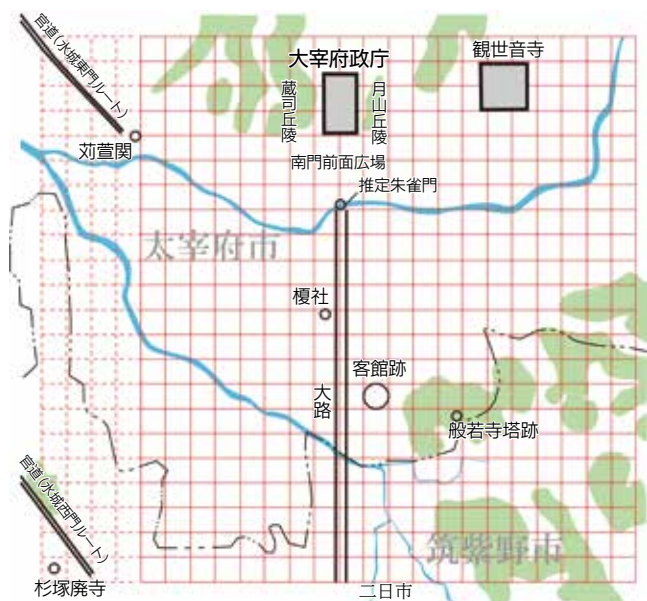
文化薫道



◆其の八十七 第一次「ちくしの」都市計画

飛鳥時代終わりから奈良時代の初め、日本では中国の唐を手本に、都や律令制度が整備されるとともに都市や国を治める国府が造られます。また、国々や郡を結ぶ道路も造られ、都への税物の運搬や人々の移動が円滑に行われるようになります。

九州には、各国を統制する「大宰



大宰府条坊跡推定図

府」と都市整備が現在の太宰府市から筑紫野市にかけて行われま

す。この大宰府には、「条坊（じょうぼう）」と呼ばれる碁盤目状の区画が南北約2km、東西約2kmの空間に広がっていたようです。ここには、住民が住む区画や各種の役所や官人の宅地の他に、外国使節の応対をする客館がつくられ、国の運営に関わる重要な機能もあつたことが分かっています。

大宰府は、「続日本記」に「此府人物殷繁。天下之一都會也」と記され、都に劣らないにぎわいがあったようで、条坊の南側を占める二日市も昔からにぎわっていたのでしょうか。

九州の政治、経済、外交の窓口として重要な役割を担った大宰府と条坊は、今の街並みの基礎になり筑紫野市の「まち」の発展につながっています。

文化財課



筑紫野市フェイスブック

<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター

<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント

<https://lin.ee/6X9wMoy>